

## アジア

### Maayong hapon kaninyong tanan!

フィリピン 小学校教諭 辻村 和也

私の活動は主にSBTP(School Based Training Program)と呼ばれる理数科教員指導向上プログラムのサポートです。各地域でほぼ月一回のペースで行われる(はず)の授業研究会に参加し、授業(主に算数科)を参観し、その後の研究協議(話し合い)の中で授業の組み立て方や指導の仕方にアドバイスをしたりするのが主な活動です。

セブというと「観光地」といったイメージがありますが、リゾートは一部で、貧富の格差が目につく地域も多く「途上国」の雰囲気を色濃く感じています。この国の人たちは「食」で歓迎することが大好きで、どの学校を訪問しても「まずは食べなさい」とばかりにおやつが出されます。食事は米が主食で、その点では困るようなことはほとんどありません。しかし、野菜料理が少なく、果物でビタミン補給しています。



Maayong hapon mga bata sa Hokkaido!

北海道の子ども達、こんにちは。この国にはたくさんの言葉があり、「フィリピノ語(タガログ語)」や「ビサヤ語」が使われています。でも、小学校一年生から英語の授業があって、子ども達は小さな頃から3つの言葉を使っています。この国は確かに「途上国」と呼ばれる国ですが、心はむしろ日本より豊かなのではないかと思うこともあります。私のような外国人に対しても、いつでも笑顔で親切に接してくれます。なかなか言葉が伝わらないなかで生活できているのは、フィリピンの人たちに支えてもらっているからなのかもしれません。皆さんにも、ぜひ学習の中で「途上国」のことを少しでも知ってほしい、そして、理解してほしいと思います。それでは皆さん、毎日の学校生活、元気にがんばってください。また皆さんにお伝えする機会があることを期待しています。



### 你好！(ニーハオ！)



中華人民共和国 日本語教師 小牧 陽二郎

高級中学(日本の高校にあたります)で1年生から3年生までの約300人を相手に日本語を教えています。生徒たちは私の顔を見ると「こんにちは！」と元気よくあいさつしてくれます。「こんにちは。今日はいい天気ですね」と返すと、①ニコニコしながら去っていく②顔を真っ赤にして逃げていく③「ありがとう！」と言って手をふる、…だいたいこんな感じです。一生懸命話しかけてくれる生徒を見るこちらも頑張らなければ、という気になります。

中国の挨拶といえば「ニーハオ！」。でも、もっとよく使われている挨拶があります。それは「吃饭了吗？(チーファンラマ：ご飯食べた？)」です。「没有！(メイヨウ！：まだです)」と答えると「じゃあ、いつしょに食べようよ」と返ってきます。中国人は食事の時間をとても大切にし、互いに誘いあって食べるのです。基本的に誘った方が全額払います。おごってもらった方は次回誘うのが礼儀で、そうすると常に誘つたり誘われたりする訳です。そのとき自分の友だちを紹介するのが常なので、気がつけば友だちの友だちのまた友だち、というふうに広がっていきます。一度食事を共にした人は全て「友だち」で、困ったときは互いに助け合います。私もたくさん助けてもらっているのですが「ありがとう」と言うと友だちなんだから遠慮するなど逆に注意されます。友だちを大切にすることにかけて中国人の右に出るものはいないのでは、と思うくらいです。

国が違うと教育事情もこんなに違うのかと驚かされることが一杯です。世界は広いとつくづく感じます。北海道も広いですが、この地球には知らないことやびっくりするようなことがまだまだ溢れているんだと実感しました。だからといって、海外に行けばいいというものでもないと思います。「実際に見ること」は大切だけど、体験しなくともわかるすることはできるはずです。大事なことは想像力。同じ世界に色々な文化や生活があり、色々な考え方があることを想像してみてください。いま、この瞬間、世界で自分と同じ年の子供が何を考えているのか、それを想像するのが国際化の第一歩じゃないかな。「思いやり」といってもいいかもしれません。みんなが大人になる頃、世界が思いやりに満ちあふれたものになっていきますように！

### アッサラーム・アライカム

バングラデシュ 小学校教諭 平本 洋康

教員の研修機関で、現地の教員の研修と子供たちの指導をしています。教員に対しては美術・体育を中心に、子どもには図工、体育、英語、算数などを教えています。その他、サイクロンの被害の多いこの地区での防災教育にも携わる予定です。また、空いている時間を利用して、他の隊員と、保健といった子どもに直接関わる教育以外の事も教えています。

この国は、リキ車(日本語の「人力車」からています)という座席がついた自転車を利用して一般の人々は移動します。年に3回お米がとれる国なので食べ物は豊富で、他の途上国とは事情がちがうようです。日によって違いますが1日に5時間から多いときで半日、停電があります。停電に伴う断水もあり、予告されないのでシャワーの時やトイレの時の急な断水は困ります。

この国では、学校にも行かせてもらえない、大人達も嫌うような汚い危険な仕事をしている子どもがたくさんいます。学校へ行かないまま大人になるので、文字の読めない人もたくさんいて、契約書を読めないために悪い人にだまされる人もいます。こちらの子供たちは自分自身が生きるために必死で、また、お互いに助け合わないと生きてはいけないので、「いじめ」たりする時間はないようです。この国では、日常的に障害のある人たちもふつうに生活し、困っている時は周りが補ってあげているなど、弱い立場の人に対して力をかけるのはあたり前です。バングラデシュはたしかに貧しく人々の中には不自由な生活をしている人たちはたくさんいますが、「心」は金持ちで、豊かです。

